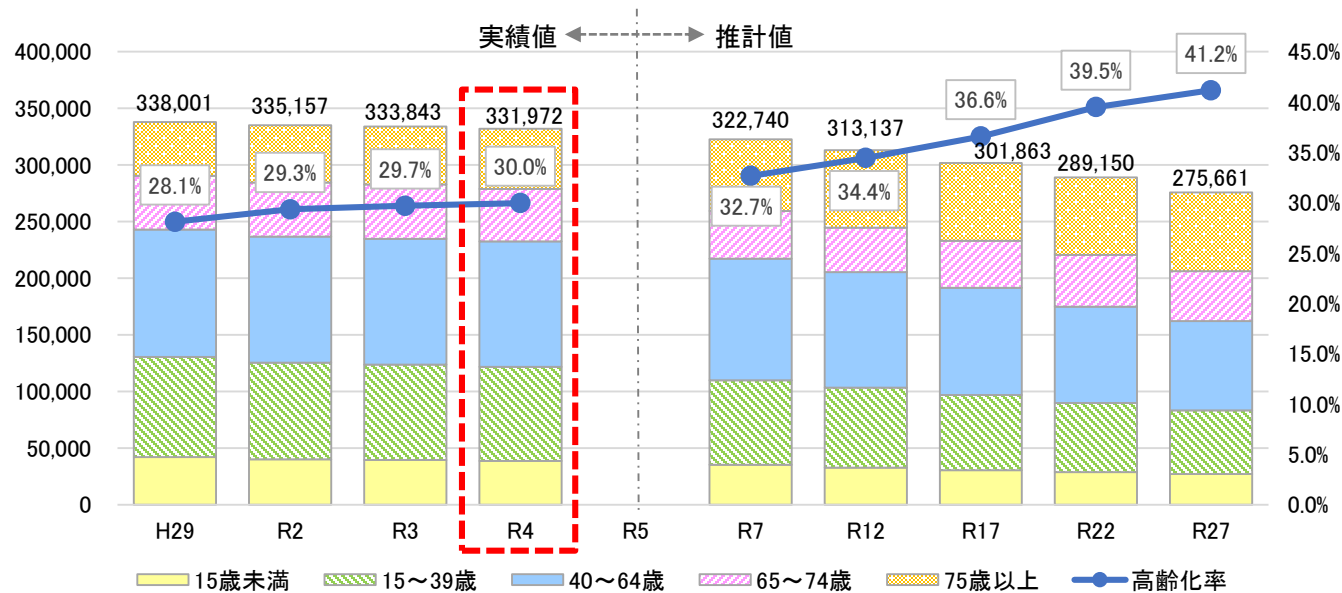


## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

### ① 介護保険事業の状況

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況 1) 高齢者数等の状況



- 前橋市の人口は、令和3年度から1,871人減少し、令和4年度は331,972人であった。
- そのうち、65歳以上の高齢者数は99,478人で、令和3年度から354人増加し、高齢者のうち75歳以上の後期高齢者は53,090人で約53%を占めている。
- 高齢化率(高齢者数/総人口数)は、0.3ポイント増の30.0%となった。

	H29	R2	R3	R4	R7	R12	R17	R22	R27
総人口	338,001	335,157	333,843	331,972	322,740	313,137	301,863	289,150	275,661
15歳未満	42,032	40,108	39,463	38,691	35,417	32,779	30,488	28,869	27,197
15~39歳	88,383	85,426	84,349	82,959	74,522	70,488	66,414	61,044	56,122
40~64歳	112,592	111,276	110,907	110,844	107,344	102,010	94,552	85,006	78,847
65歳以上	94,994	98,347	99,124	99,478	105,457	107,860	110,409	114,231	113,495
65~74歳	47,563	47,719	48,100	46,388	41,967	39,413	41,711	45,747	43,995
75歳以上	47,431	50,628	51,024	53,090	63,490	68,447	68,698	68,484	69,500
高齢化率	28.1%	29.3%	29.7%	30.0%	32.7%	34.4%	36.6%	39.5%	41.2%

※H29～R4は実績値。R7以降は推計値。(各年9月末時点)

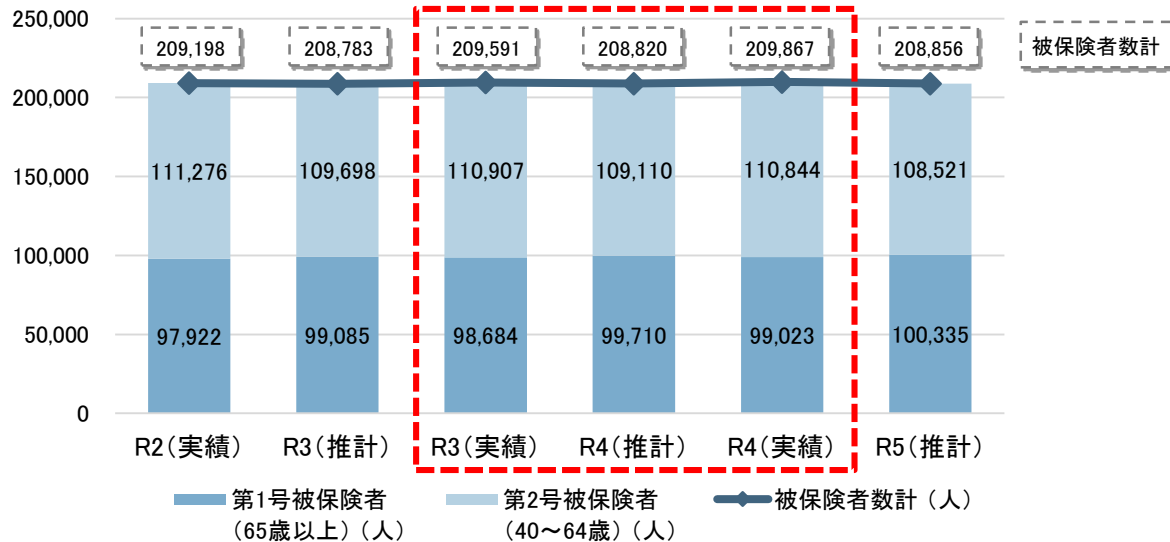
(出典)実績値:高齢者人口調べ 推計値:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況 2) 被保険者の状況

### ■ 被保険者の状況(各年9月末時点)

- 令和4年度第1号被保険者(実績)は、令和3年度から339人増加している。(前年度比100.3%)  
なお、令和3年度は、令和2年度から762人増加している。(前年度比100.8%)
- 令和4年度第1号被保険者の推計値と実績値の比較では、687人ほど推計値を下回っている。(令和3年度は401人推計値を下回る)



区分	R2(実績)	R3(推計)	R3(実績)	R4(推計)	R4(実績)	R5(推計)
被保険者数計 (人)	209,198	208,783	209,591	208,820	209,867	208,856
第1号被保険者 (65歳以上) (人)	97,922	99,085	98,684	99,710	99,023	100,335
第2号被保険者 (40~64歳) (人)	111,276	109,698	110,907	109,110	110,844	108,521

※各年9月末時点

(出典)第1号被保険者:介護保険事業状況報告月報 第2号被保険者:住民基本台帳

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 3) 要介護認定の状況 (1) 認定者数の推移と構成の傾向

#### ■ 要介護等認定者数の推移と構成の傾向

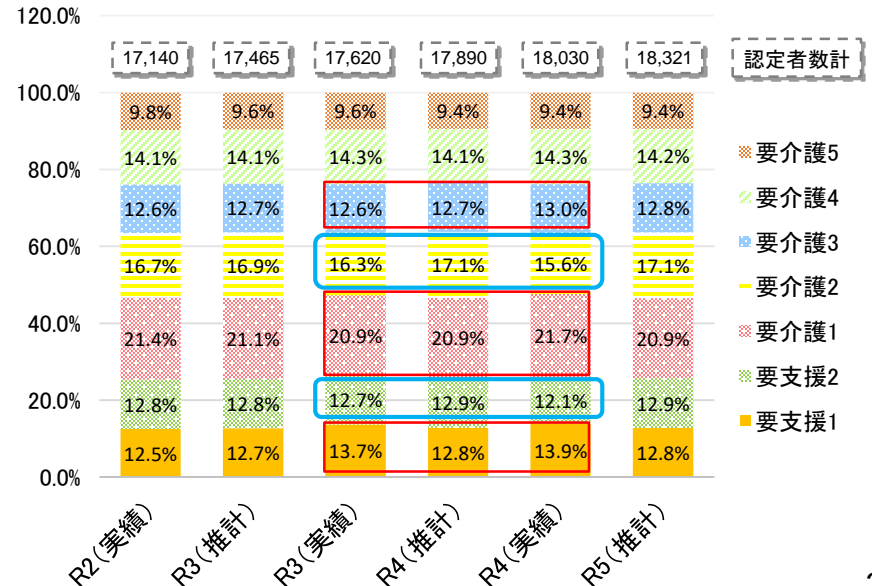
- 令和4年度(実績)は、第1号被保険者の増加に伴い3年度から認定者数全体で2.3%増の18,030人となっている。(2年度→3年度は2.8%増)
- 介護度別認定者数では、要介護1は6.1%増、要介護3は5.5%増、要支援1は3.8%増、一方、要支援2は2.9%減、要介護2は1.8%減となって、介護度別の差が大きくなっている。
- 介護度別構成比においても、要介護1は0.8ポイント増、要介護3は0.4ポイント増、一方、要支援2は0.6ポイント減、要介護2は0.7ポイント減となり、介護度別の差が大きくなっている。

⇒ 要支援1が増えた一因として、団塊世代(昭和22年から昭和24年生まれ)が73歳から75歳を迎え加齢による申請が増えつつあることが考えられる。また、要介護1が増えた一因として、要支援1・2の方が要介護1になる傾向が見られ、団塊世代が後期高齢者に入り介護度が重くなった認定者が増えているためと考えられる。同様に要介護3が増えた一因として、介護度が要介護3以上に重くなる傾向が見られ、78歳から82歳までの被保険者の増加に伴い、介護度がより重くなる認定者が増えている傾向があるためと考えられる。

介護度別認定者数

		R2(実績)	R3(推計)	R3(実績)	R4(推計)	R4(実績)	R5(推計)
人数(人)	合計	17,140	17,465	17,620	17,890	18,030	18,321
	要支援1	2,141	2,221	2,410	2,295	2,502	2,341
	要支援2	2,196	2,237	2,241	2,314	2,175	2,372
	要介護1	3,671	3,691	3,683	3,731	3,908	3,823
	要介護2	2,863	2,956	2,867	3,064	2,816	3,126
	要介護3	2,168	2,226	2,219	2,277	2,341	2,338
	要介護4	2,423	2,458	2,511	2,523	2,587	2,596
要介護5	1,678	1,676	1,689	1,686	1,701	1,725	
認定者のうち第1号被保険者数		16,834	17,162	17,306	17,587	17,702	18,020
第1号被保険者数		97,922	99,085	98,684	99,710	99,023	100,335
認定率		17.2%	17.3%	17.5%	17.6%	17.9%	18.0%

介護度別構成比



※各年9月末時点  
(出典)認定者データ(前橋市介護保険課調べ)

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

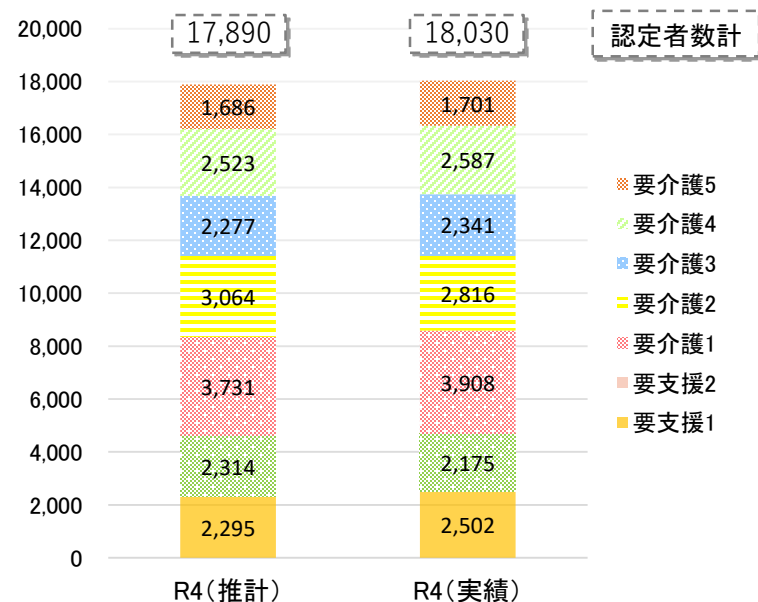
## ① 介護保険事業の状況

### 3) 要介護認定の状況 (2) 認定者数の推計値と実績値の比較

#### ■ 要介護等認定者数の令和4年度推計値と実績値の比較

- 令和4年度の認定者全体人数は、対推計比100.8%と推計値を若干上回った。
  - 要支援1・要介護1・3・4は推計値を約2%~9%上回った一方、要支援2・要介護2は、推計値を約6%~8%下回る結果となった。
  - 認定率は、推計値より0.3ポイント増となった。
- ⇒ 認定率の0.3ポイント増は、推計値より第1号被保険者数が伸びなかった一方、第1号被保険者の認定者数が伸びたことが一因として考えられるが、人数としては115人の差であり、ほぼ推計値どおりの推移である。
- ⇒ 介護度別では、3ページのとおり認定者の介護度別の差が大きくなった結果、対推計比で2%~9%と推計値との差が広がった。

		R4(推計)	R4(実績)	R4(対推計比)
人数 (人)	合計	17,890	18,030	100.8%
	要支援1	2,295	2,502	109.0%
	要支援2	2,314	2,175	94.0%
	要介護1	3,731	3,908	104.7%
	要介護2	3,064	2,816	91.9%
	要介護3	2,277	2,341	102.8%
	要介護4	2,523	2,587	102.5%
	要介護5	1,686	1,701	100.9%
構成比 (%)	合計	100%	100%	—
	要支援1	12.8%	13.9%	—
	要支援2	12.9%	12.1%	—
	要介護1	20.9%	21.7%	—
	要介護2	17.1%	15.6%	—
	要介護3	12.7%	13.0%	—
	要介護4	14.1%	14.3%	—
	要介護5	9.4%	9.4%	—
認定者のうち第1号被保険者数		17,587	17,702	100.7%
第1号被保険者数		99,710	99,023	99.3%
認定率		17.6%	17.9%	—



※各年9月末時点

※「認定率」は、第1号被保険者に占める第1号被保険者の認定者数の割合

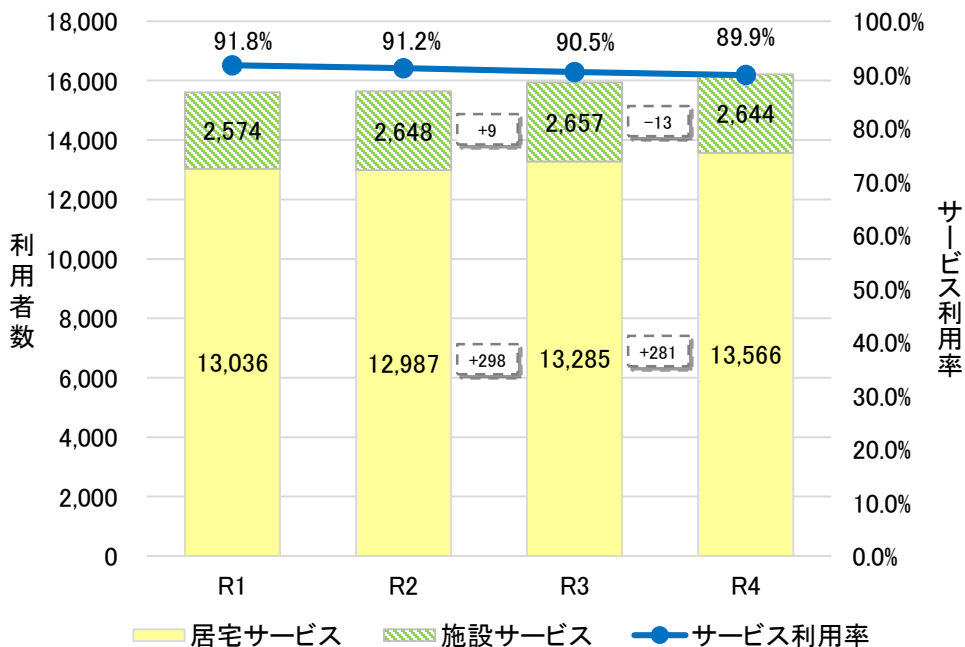
# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 4) 介護保険サービスの利用状況 (1) サービス利用者数／介護保険給付費

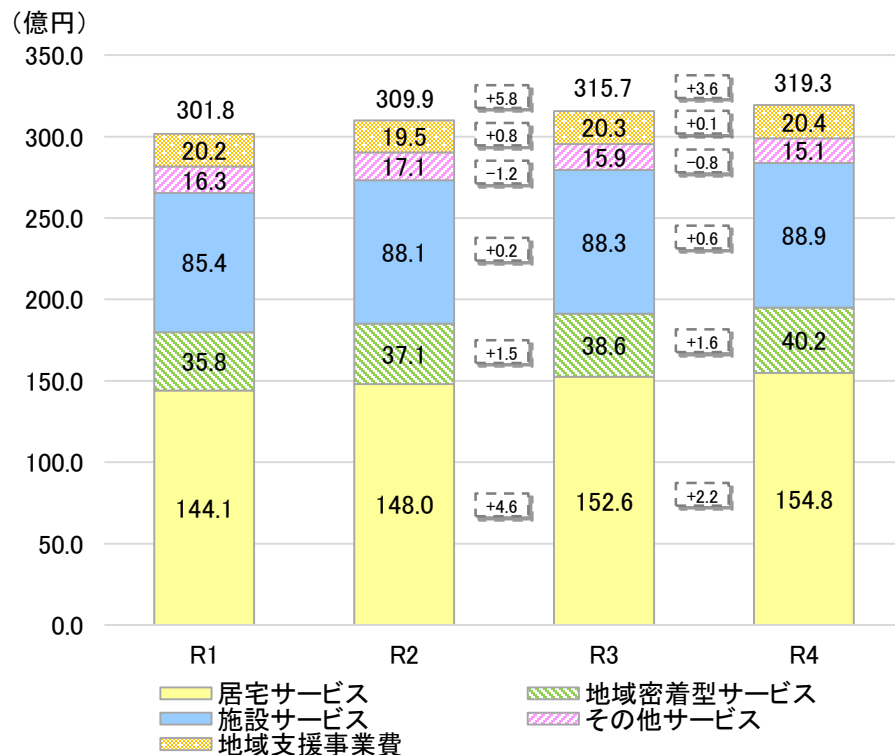
#### ■ 介護保険サービス利用者数の推移(実績値)

- 令和3年度から4年度にかけて、引き続き利用者数は増加した。内訳として、施設サービス利用者数は微減して横ばいの方、居宅サービス利用者数は引き続き増加した。本市の地域特性で、居宅サービス利用が群馬県・全国平均よりも多い等の要因が考えられる。
- 認定者は年々微増しているが、認定者に占める介護保険サービス利用者の割合は90%を割って、サービス利用率は若干低下しつつある。



#### ■ 介護保険給付費の推移(実績値)

- 介護給付費の総額は、令和3年度から4年度にかけて約3.6億円増加した。利用者数の増加率低下や、その他サービス費(特定入所者介護サービス費等)が減少したため、2年度から3年度にかけては約5.8億円の増加であったが、増加率がやや鈍化している。
- 利用者数の増加に伴い、居宅サービス費が大きく増加し、地域密着型サービス費、施設サービス費と続いて増加した。



※各年9月の利用者数 (出典)介護保険事業状況報告月報

(出典)介護保険事業状況報告年報(R3とR4のみ決算資料)

※「居宅サービス」、「施設サービス」、「地域密着型サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの129～131ページを参照

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 4) 介護保険サービスの利用状況

※R4第1号被保険者あたりの給付月額と保険給付費については、介護保険事業状況報告月報の11か月分の実績値による暫定値

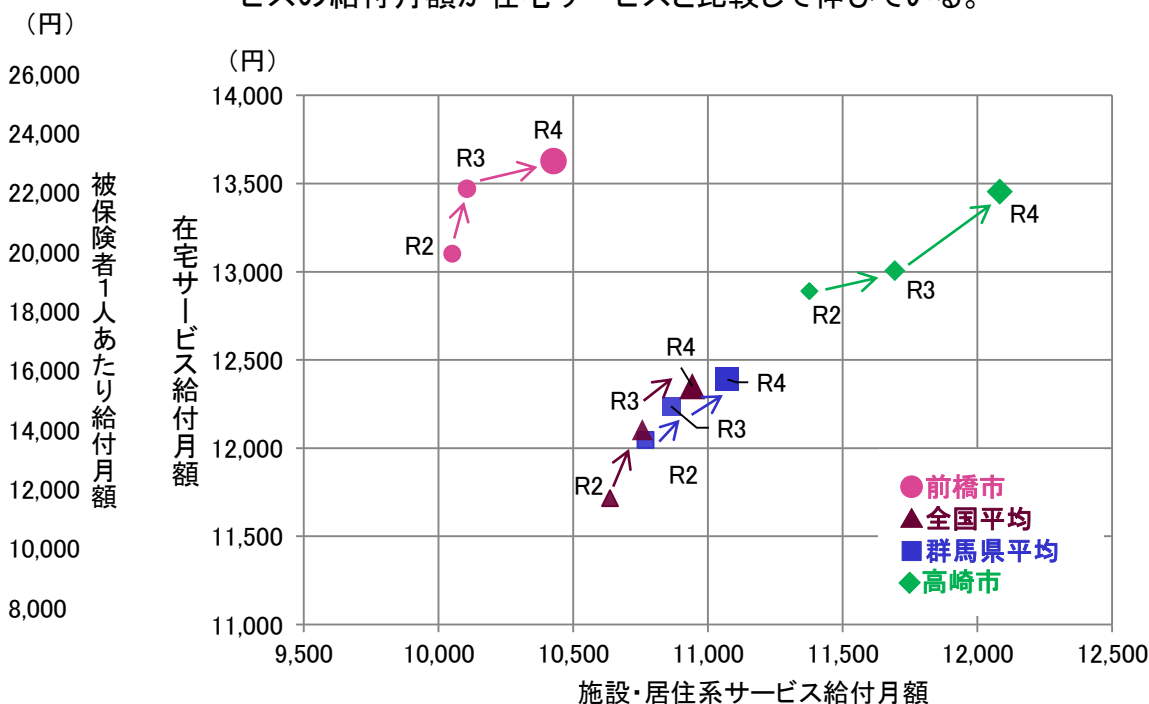
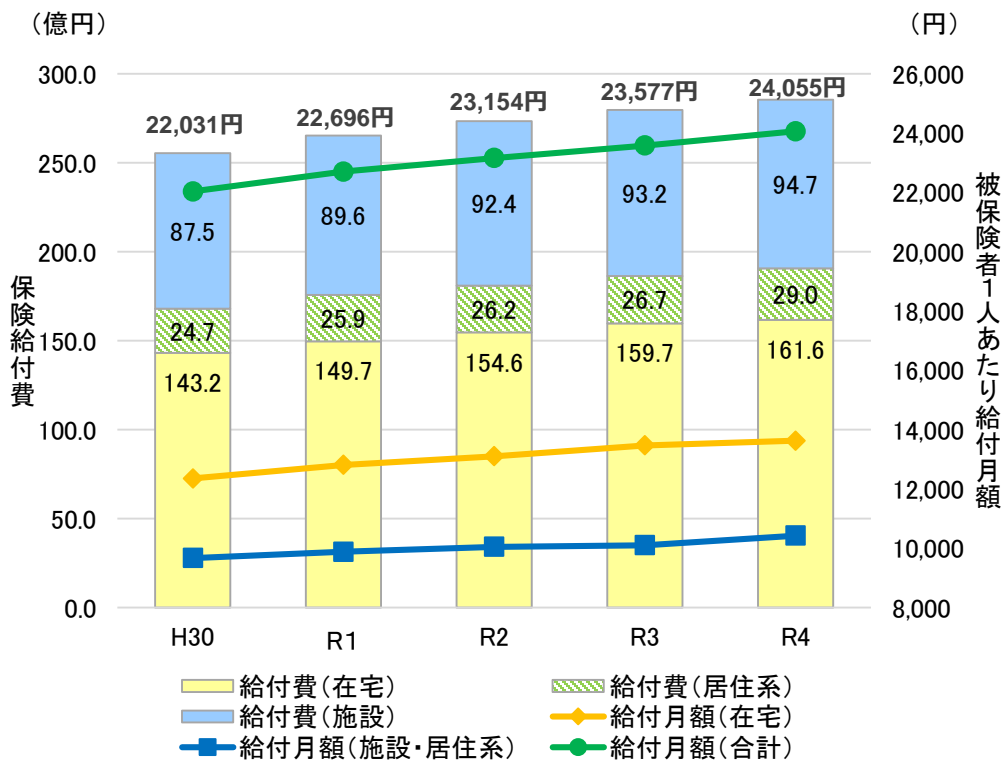
### (2) 被保険者1人あたり給付月額

#### ■ 第1号被保険者1人あたり給付月額の推移(実績値)

- 令和4年度の第1号被保険者1人あたり給付月額は24,055円で、その内訳は、在宅サービスが13,627円、施設・居住系サービスが10,428円となっている。
- 令和3年度と比較すると、令和4年度の第1号被保険者1人あたり給付月額は478円増加して、毎年微増傾向にある。

#### ■ 地域比較(第1号被保険者1人あたり給付月額)

- 本市の在宅サービスの給付月額は全国・群馬県平均よりも引き続き高く、施設・居住系サービスの給付月額は低い。総額では、全国・群馬県平均をやや上回っている。
- 令和3年度と比較すると、引き続き被保険者1人あたり給付月額の増加額は全国平均よりも高く、令和3年度は施設・居住系サービスの給付月額が在宅サービスと比較して伸びている。



(出典)介護保険事業状況報告月報

※「在宅サービス」、「施設サービス」、「居住系サービス」の種類については、第8期まえばしスマイルプランの17ページを参照

# (1) 第8期まえばしマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】

※R4利用者数については、介護保険事業状況報告月報の11か月分の実績値を÷11で計算した暫定値

### (1) 利用者数・介護給付費全体の推移

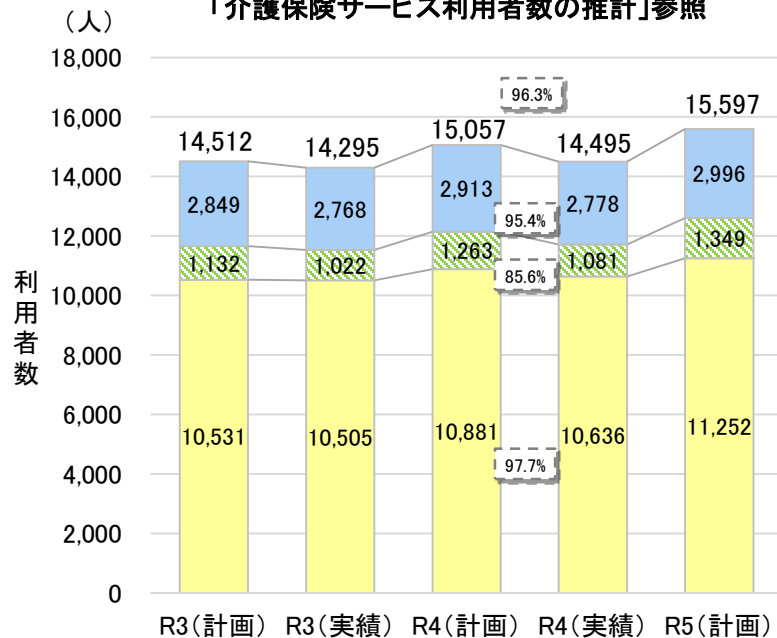
#### ■ 介護保険サービス利用者数の推移(計画値と実績値)

- 令和4年度の利用者数全体は、対計画値96.3%とやや下回った。
- 居住系サービスは利用者数の増加幅を大きく見込んでいたが増加幅が小さく対計画比85.6%と大きく下回った。在宅サービスは対計画比97.7%、施設サービスは対計画比95.4%とやや下回った。

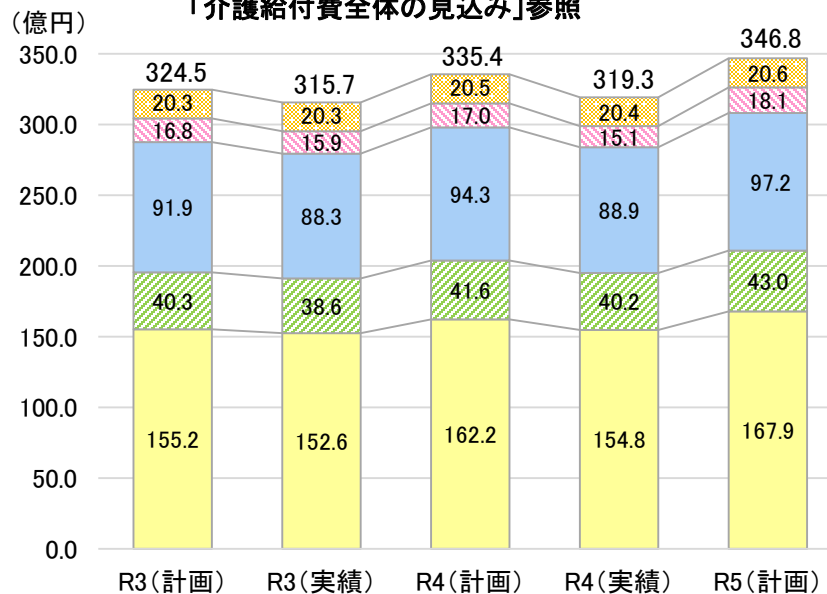
#### ■ 介護給付費全体の推移(計画値と実績値)

- 令和4年度の介護給付費全体の総額も、利用者数と同様に、対計画比95.2%とやや下回った。
- 各サービスにおいても、居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスともに、対計画比95%程度と総額と同様に下回った。
- 地域支援事業費(総合事業等)は計画値どおりだった。

第8期まえばしマイルプランの100ページ「介護保険サービス利用者数の推計」参照



第8期まえばしマイルプランの115ページ「介護給付費全体の見込み」参照



(出典)実績値: 介護保険事業状況報告月報

■ 在宅サービス ■ 居住系サービス ■ 施設サービス

■ 居宅サービス ■ 地域密着型サービス ■ 施設サービス ■ その他のサービス ■ 地域支援事業費

(出典)実績値: 決算資料

※「在宅サービス」、「施設サービス」、「居住系サービス」の種類については、第8期まえばしマイルプランの17ページを参照

※「居宅サービス」、「施設サービス」、「地域密着型サービス」の種類については、第8期まえばしマイルプランの129～131ページを参照



## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

### ① 介護保険事業の状況

#### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (2) 考えられる要因

##### ■ 計画値と実績値の詳細比較(利用者数・介護給付費)

- 資料1-1 別紙「第8期計画期間における計画値と実績値の比較」を参照

##### ■ 要因分析

- 令和4年度において、計画値と実績値で±10%以上の乖離があったサービスに対して要因を分析。
- 計画値と実績値が乖離しているサービスについて、その要因を分析したところ、以下の理由が考えられる。

#### ① 施設(基盤)整備

#### ② 訪問系サービス利用の増加

#### ③ 地域密着型サービスの利用状況

#### ④ 短期入所サービスの利用状況

## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

### ① 介護保険事業の状況

#### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (3) 要因①

#### ① 施設(基盤)整備

##### ■ 施設サービス

##### ● 介護医療院

⇒ 令和元年度に開設した1施設(定員26人)について、令和4年4月から計画として見込んでいた介護老人保健施設からの転換(定員39人分)が追加され定員65人となった結果、要介護1～要介護4までの利用者が大幅に増加した。特に要介護3～要介護4の利用者が増加し、対計画比89.0%と計画値に近づいたが、要介護度が低い利用者も増えた結果、給付費においては対計画比77.5%と大きく下回った。

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	20	32	85	183	0	320	-82
	増加率		1167%	950%	377%	100%	190%	89%
R4	利用者数※	20	35	95	249	275	674	756
	構成比	3.0%	5.2%	14.1%	36.9%	40.8%	100.0%	
R3	利用者数	0	3	10	66	275	354	396
	構成比	0.0%	0.8%	2.8%	18.6%	77.7%	100.0%	

←要介護3・4が大幅に増加し、計画値に近づいた

※R4利用者数については、介護保険事業状況報告月報R5年3月分までの11か月分の実績値を÷11×12で計算した暫定値  
R4利用者数の合計値は、端数調整を行ったため、比較表の数値とずれている場合があります【以下すべて同じ】  
※係数は、端数整理等により、合計と合致しない場合があります

※令和4・3年度実績(介護保険事業状況報告月報より)



・令和4年度の利用者は大幅に増加し、計画値に近づいているが、満床を見込んだ計画値のため、今後、利用者増を見込んで、計画値からは下回る可能性がある。

※第8期まえばしスマイルプランの23～25ページを参照

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (3) 要因①の続き

#### ① 施設(基盤)整備

##### ■ 居住系サービス

- 特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム)

⇒ 計画として見込んでいた転換により令和4年4月に定員130人分が増えた結果、特に要介護3～要介護4の利用者は増加した。

一方、要支援1～要支援2の利用者は減少した。利用者数全体では増加したが、増加幅は小さく、利用者は対計画比80.2%で、給付費は対計画比83.6%と大きく下回った。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	R4計画値
R4/R3	増加数	-24	-121	24	83	159	312	55	488	-1,828
	増加率	91%	63%	101%	106%	114%	122%	108%	107%	80%
R4	利用者数※	231	206	1,672	1,454	1,335	1,741	737	7,376	9,204
	構成比	3.1%	2.8%	22.7%	19.7%	18.1%	23.6%	10.0%	100.0%	
R3	利用者数	255	327	1,648	1,371	1,176	1,429	682	6,888	7,812
	構成比	3.7%	4.7%	23.9%	19.9%	17.1%	20.7%	9.9%	100.0%	

←要介護3・4が大幅に増加した一方、要支援1・2は減少

※令和4・3年度実績(介護保険事業状況報告月報より)



・要介護1～要介護4の方が引き続き多く利用し、第8期計画期間においては施設整備による定員増に伴い、利用者数は増加したが、計画として見込んでいた居住系サービスの計画値までは届かず、対計画比80%前後と計画値から大きく下回った状況である。

※第8期まえばしスマイルプランの23～25ページを参照

(1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

① 介護保険事業の状況

5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (4) 要因②

② 訪問系サービス利用の増加

■ 訪問系サービス(在宅)

● 訪問介護

⇒ 訪問介護員の不足等を考慮し、第8期計画期間では横ばいと設定し計画していたが、どの介護度においても利用者が増加し、利用者は対計画比104.8%で、給付費は対計画比111.7%と大きく上回った。

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	25	74	331	143	104	677	1546
	増加率	100%	101%	107%	103%	103%	102%	105%
R4	利用者数※	10,480	8,283	5,210	5,602	4,239	33,814	32,268
	構成比	31.0%	24.5%	15.4%	16.6%	12.5%	100.0%	
R3	利用者数	10,455	8,209	4,879	5,459	4,135	33,137	32,208
	構成比	31.6%	24.8%	14.7%	16.5%	12.5%	100.0%	

←全体的に  
増えている

・訪問介護では支給限度基準額が多く、より多く利用できる要介護3・4の利用者が増加したため、給付費が111.7%と計画値を上回った。

● 訪問入浴介護

⇒ 要介護5の利用者が半数以上を占める重度者向けの在宅サービス。  
市内の事業所数は5事業所と少なく、利用者数も全体から見れば多くない。  
⇒ 要介護5の利用者が大きく増加、要介護1・要介護2の利用者も増加し、利用者は対計画比122.0%で、給付費は対計画比111.8%と大きく上回った。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	0	8	21	15	-7	-17	49	69	338
	増加率			151%	110%	97%	97%	105%	104%	122%
R4	利用者数※	0	8	62	168	201	485	950	1,874	1,536
	構成比	0.0%	0.4%	3.3%	9.0%	10.7%	25.9%	50.7%	100.0%	
R3	利用者数	0	0	41	153	208	502	901	1,805	1,548
	構成比	0.0%	0.0%	2.3%	8.5%	11.5%	27.8%	49.9%	100.0%	

←要介護5  
は増加数  
が多く、要  
介護1・2は  
増加率が  
大きかった

・訪問介護と訪問入浴介護いずれも、供給量が変わらず横ばいで推移すると計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、訪問系サービス全体の需要が高くなったことが一つの理由として考えられる。

## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

### ① 介護保険事業の状況

#### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (4) 要因②の続き

### ② 訪問系サービス利用の増加

#### ■ 訪問系サービス(在宅)

##### ● 訪問リハビリテーション

⇒ 令和4年度は、要支援1～要介護1の軽度者と要介護5が増加した一方、要介護2～要介護4の利用者は減少した。  
利用者は対計画比119.1%と大幅増加に伴い、給付費は対計画比114.7%となり計画値を大きく上回った。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	87	18	31	-34	-83	-26	29	22	532
	増加率	139%	104%	106%	96%	82%	95%	109%	101%	119%
R4	利用者数	308	464	543	753	382	509	357	3,316	2,784
	構成比	9.3%	14.0%	16.4%	22.7%	11.5%	15.3%	10.8%	100.0%	
R3	利用者数	221	446	512	787	465	535	328	3,294	2,748
	構成比	6.7%	13.5%	15.5%	23.9%	14.1%	16.2%	10.0%	100.0%	

←要支援1は大幅に増加した一方、要介護2～4は減少

※令和4・3年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

・令和2年に1事業所、令和3年にも1事業所が増えて、医療みなし指定の事業所を含めて事業所の延べ利用者人数が増加しており、訪問リハビリの需要増に伴いサービス提供も増えている。令和4年度は、その中でも軽度者の利用者増の傾向が見られた。

## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

### ① 介護保険事業の状況

#### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (4) 要因②の続き

### ② 訪問系サービス利用の増加

#### ■ 訪問系サービス(在宅)

##### ● 居宅療養管理指導

⇒ 第7期の利用実績から第8期の要支援者・要介護者の増加を加味して計画値を見込んでいたが、高齢化による要介護者の増加等に伴い、要介護者(特に要介護2～要介護4)の居宅療養管理指導の利用が大幅に増加した。

利用者は対計画比107.0%と増加し、要介護2～要介護4の利用者増加に伴い、給付費では対計画比118.5%と大きく上回った。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	97	-105	225	780	899	943	517	3,356	2,186
	増加率	117%	89%	104%	113%	117%	115%	110%	111%	107%
R4	利用者数	659	890	5,949	6,599	6,259	7,423	5,595	33,374	31,188
	構成比	2.0%	2.7%	17.8%	19.8%	18.8%	22.2%	16.8%	100.0%	
R3	利用者数	562	995	5,724	5,819	5,360	6,480	5,078	30,018	30,228
	構成比	1.9%	3.3%	19.1%	19.4%	17.9%	21.6%	16.9%	100.0%	

←要支援2以外は全体的に利用者が増えている

※令和4・3年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

・令和5年3月の給付実績では、居宅療養管理指導は1か月5,000件弱の利用件数となっている(令和4年3月4,300件程で前年同月比114%)。5,000件弱のうち、単一建物居住者2人以上に対するサービス提供が8割弱を占めている(令和5年3月3,947件、令和4年3月3,473件で前年同月比114%)。高齢者向け住まいの増加に伴い、そこへ居住する要介護者の居宅療養管理指導の利用が年々増えているためと考えられる。

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (5) 要因③

#### ③ 地域密着型サービスの利用状況

##### ■ 地域密着型サービス(在宅)

###### ● 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

⇒ 令和元年度に2事業所が開設したことを踏まえて、利用者数の増加を見込んで計画していたが、利用者数は令和3年度からやや減少し、対計画比83.7%、給付費は対計画比では79.6%と大きく下回った。

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	-29	23	-17	-29	27	-25	-135
	増加率	90%	111%	78%	75%	161%	97%	84%
R4	利用者数※	252	224	61	85	71	693	828
	構成比	36.4%	32.3%	8.8%	12.3%	10.2%	100.0%	
R3	利用者数	281	201	78	114	44	718	720
	構成比	39.1%	28.0%	10.9%	15.9%	6.1%	100.0%	

←介護度別のバラツキはあるが合計人数は微減した

###### ● 看護小規模多機能型居宅介護

⇒ 令和2年度に1事業所が開設したことから、利用者数の増加を見込んで計画していたが、利用者数は令和3年度からやや減少し、利用者は対計画比83.8%、給付費は対計画比84.0%と大きく下回った。

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	-13	3	10	-2	-2	-4	-32
	増加率	24%	107%	140%	94%	96%	98%	84%
R4	利用者数※	4	47	35	31	55	172	204
	構成比	2.3%	27.3%	20.3%	18.0%	32.0%	100.0%	
R3	利用者数	17	44	25	33	57	176	180
	構成比	9.7%	25.0%	14.2%	18.8%	32.4%	100.0%	

←合計人数は微減

・いずれもサービス利用者の増加を見込んでいた計画値ほど利用者が伸びなかったため、給付費が対計画比80%前後と下回った。

# (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

## ① 介護保険事業の状況

### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (6) 要因④

#### ④ 短期入所サービスの利用状況

##### ■ 短期入所サービス

###### ● 短期入所生活介護(ショートステイ)

⇒ 令和3年度までは施設入居者との接触機会を減らすため他のサービスよりも利用者の減少幅が大きかったが、令和4年度の利用者数は対計画比88.4%と計画値を下回ったものの、ショートステイの利用控えが緩和されてきた傾向にある。

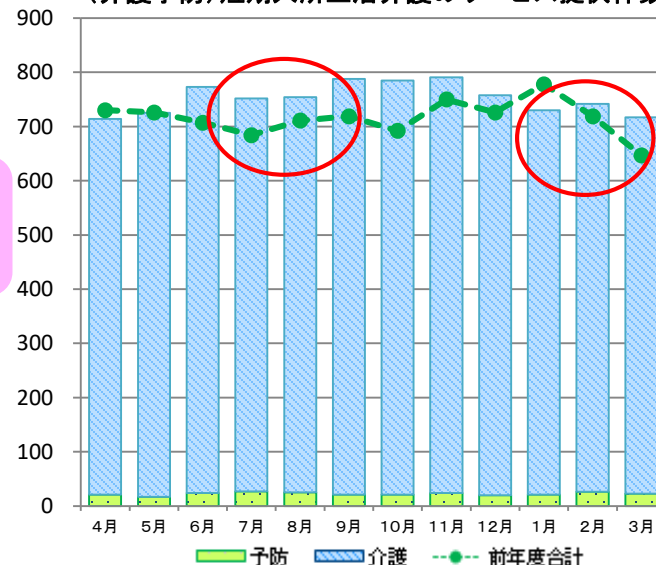
⇒ 要介護度別では、要支援1・要介護1・要介護3が増加した一方、要支援2・要介護2は減少しており、この傾向は、認定者の介護度別内訳の推移に比例している。

⇒ 国保連合会の審査データからは、新型コロナウイルス感染者数が多い月においては、若干サービス提供件数が減少し、利用控えがあったと思われる。

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	計画値
R4/R3	増加数	38	-49	269	-89	181	34	51	435	-1,133
	増加率	184%	78%	116%	96%	110%	102%	106%	105%	88%
R4	利用者数	83	171	1,999	1,999	2,031	1,478	874	8,635	9,768
	構成比	1.0%	2.0%	23.1%	23.1%	23.5%	17.1%	10.1%	100.0%	
R3	利用者数	45	220	1,730	2,088	1,850	1,444	823	8,200	9,744
	構成比	0.5%	2.7%	21.1%	25.5%	22.6%	17.6%	10.0%	100.0%	

※令和4・3年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

(介護予防)短期入所生活介護のサービス提供件数



←要支援1・要介護1・3が大幅に増加した一方、要支援2・要介護2は減少

※国保連合会の審査データを元に集計  
 ※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。



## (1) 第8期まえばしスマイルプランの分析・評価について

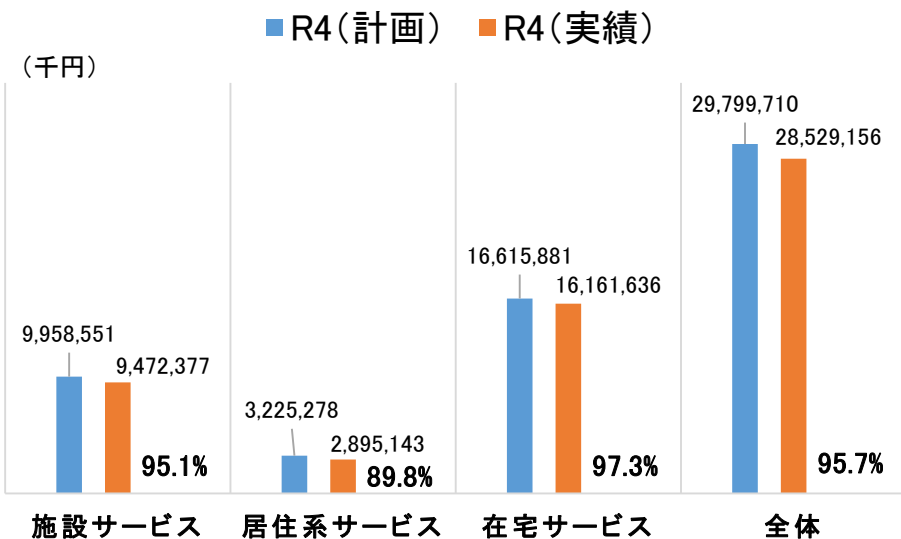
### ① 介護保険事業の状況

#### 5) 計画値と実績値の比較【令和4年度】 (7) 全体

##### ■ 全体のサービス提供件数

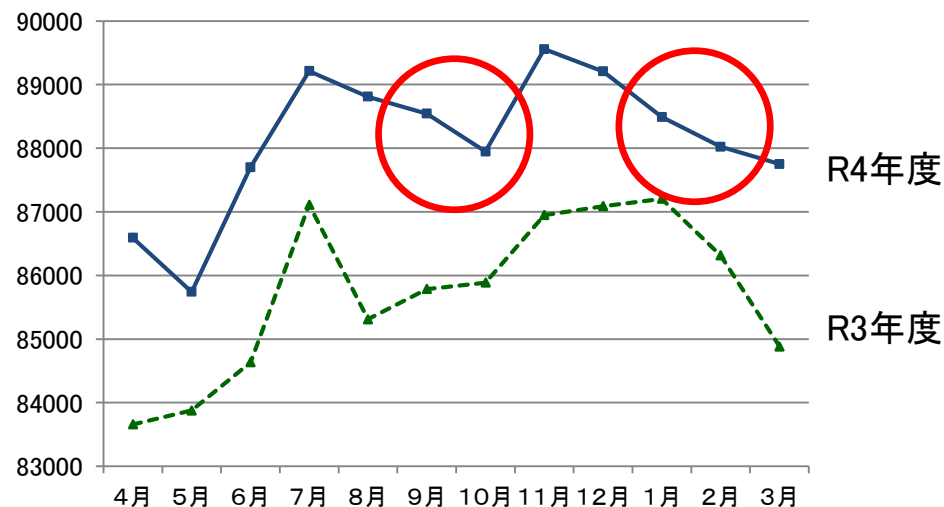
- 令和4年度のサービス提供件数は、令和2年度から3年度へかけての増加傾向に引き続き、令和3年度と比較して各月とも増加したが、令和4年度対計画比で見ると給付費全体では対計画比95.7%とやや下回った。令和4年度は、3年度から全体的にサービス提供件数が増加していたが、令和4年8月～9月と令和4年12月～令和5年1月にかけて、新型コロナウイルス感染者数が増加した影響があり、その間のサービス提供件数は若干減少傾向となったが、給付費全体で見ると計画値をやや下回った状況であった。
- サービス別では、施設サービス及び在宅サービスは対計画比96%前後でやや下回った程であったが、居住系サービスは、利用者数の増加幅が小さかったため、令和3年度から引き続き計画値を大きく下回った。

R4年度計画値と実績値の比較(サービス区分ごとの給付費)



※令和4年度実績(介護保険事業状況報告月報より)

サービス提供件数全体



※国保連合会の審査データを元に集計

※横軸は国保連合会が審査した月のため、サービス提供月は1か月前となる。